

地域で市民と患者の生活を支える（認知症施策の充実について）



G7伊勢志摩首脳宣言

認知症にやさしい  
地域づくりや研究開発の推進を表明

認知症サミット in Mie (10/14・15 四日市市)

目的

- 認知症患者の急増が見込まれるアジア諸国へ日本が貢献
- 日本の先端技術（ハード）と認知症ケア（ソフト）を融合し介護機器の開発と産業振興へ

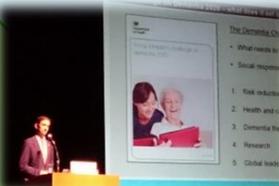
パール宣言

認知症に係る国際連携の推進とともに

- ①医療・介護の連携強化と人材育成
- ②認知症の方と家族を支える地域づくり
- ③医療・介護と産業連携による製品・サービスの創出

議論の成果を世界へ発信！

成果を本県の施策に



英国総領事館による講演



パール宣言記者会見

英国と日本の認知症看護

～三重県看護職員等の海外派遣研修より～



英国

- ◆平穏で安心できる環境、本人にあったアクティビティケアの提供。
- ◆身体拘束をしない安全管理（**尊厳の保持**）一病室内で看護助手が24時間体制でモニタリング。
- ◆地域・家庭でのケア中心。
- ◆本人主体の情報共有（病院・病棟で**組織的**に実践）。



日本

- ◆個性性の高いケアが提供されにくい。
- ◆治療や事故のリスクと本人の尊厳の保持との間の葛藤。
- ◆病院・施設でのケア中心
- ◆多職種と情報共有するための**システム**が未確立。

“This is me”入院中の認知症患者の情報を共有し、その人の望むケアを実現するために英国で使われているツール。



第2回三重県看護職員等の海外派遣研修修生

認知症患者は、危険回避のため、夜間はナースステーションや廊下に集められることがある。  
マンパワー不足！

①医療・介護の連携強化と人材育成

- ◆認知症疾患医療センターの整備  
身近な地域で専門的な医療が受けられるよう診療所型の設置を進める
- ◆認知症に係る体系的な看護師の育成  
基礎から認定看護師まで体系的な人材育成を進める
- ◆元気高齢者(介護助手等)の活用促進  
医療・介護現場での活躍の場づくりを進める

②認知症の方と家族を支える地域づくり

- ◆認知症コールセンターの利便性向上  
働く人が利用しやすいよう休日・夜間の運営を進める
- ◆認知症サポーターの活躍促進  
ステップアップのための研修や活躍の場づくりを進める

医療

- ・認知症疾患医療センター
- ・認知症サポート医
- ・認知症認定看護師等

- ・認知症コールセンター
- ・若年性認知症支援コーディネーター



- ・介護支援専門員
- ・認知症介護指導者

介護

- ・認知症サポーター
- ・認知症カフェ

民間企業との協力強化

- ・認知症初期集中支援チーム

平成27年度設置率 全国1位！

③医療・介護と産業連携による製品・サービスの創出

◆「みえライフイノベーション総合特区」によるヘルスケア産業の振興

ものづくり企業、大学、医療機関、老人福祉施設等が連携し、医療・介護現場のニーズをもとにした、製品・サービスの開発を進める

遠隔操作型アンドロイド (テレノイド)



テレノイドを活用した遠隔操作による会話型見守り

高齢者向けタブレット



介護予防、生活支援、健康管理に活用！

ロボットスーツHAL



ロボットスーツHAL®を活用したリハビリ

元気高齢者「介護助手」活用の取組

～三重県老人保健施設協会の取組～

元気高齢者に、介護職場で清掃やベッドメイクなどの補助的な業務を担う「介護助手」として、活躍してもらう取組  
平成27年度 介護老人保健施設9施設で実施  
平成28年度 介護老人保健施設20施設で実施

【平成27年度実績】  
「介護助手」として採用された人数 57人  
事業終了後も継続就労している人数 43人



本県の取組例①

本県の取組例②